

第29回 全国闘牛サミット in久慈大会



1/山形小によるマーチングバンドの演奏 2/山形中によるソーラン演舞
3/抽選会の景品とされた闘牛画家三角敏子さんの水墨画 4/小千谷から参戦した新五左工門。長時間移動の疲れも見せず、堂々とした戦いを見せました 5/勝負が決する直前に手綱を引いて、引き分けにするのが平庭闘牛のルールです 6/取組が終わって、記念撮影タイム。牛たちもリラックスした表情をみせます



10年ぶりに久慈市で開催された全国闘牛サミット。6月14日に、平庭闘牛場で記念闘牛大会が行われ、晴天の下、訪れた3千人の観客が、1トンに迫る巨体をぶつけ合う牛たちに声援を送りました。

大会のオープニングでは山形小学校のマーチングバンド、山形中学校のソーラン、山形太鼓同好会の演奏やチェリッシュのチアダンスが披露され、大会に花を添えました。大会には、新潟県小千谷市から参戦した牛を含め30頭が参加し、全15番の取組を実施。取組の間には、サミットに参加する全国9市町のPRが行われ、各地の闘牛アナウンサーによる呼び出しや入場時・勝利時の音頭や舞など、訪れた人たちが、全国の多様な闘牛文化の一端に触れる機会ともなりました。会場では、各市町の名産品や闘牛グッズが当たる抽選会も開催。闘牛画家三角敏子さんの水墨画を当てた常陸怜香さん（釜石市）は「相手をにらみつける目力が迫力満点。ぶつかり合うだけでなく、体を見せて威圧するなど色々な戦い方があり、見ごたえがありました」と話しました。

